

# G KUN W!

Gifu Keizai University

岐阜経済大学マガジン

vol.  
86

2014.February



【特集】②

## 石原学長が語る! 岐阜経済大学の現在と未来

- ④ 自分街道まっしぐら
- ⑥ キャンパス・スポット「岐経祭2013」
- ⑦ キャンパス・スポット「学内ゼミナール大会」
- ⑧ 輝け!アスリートたち
- ⑩ Close up 指導者の声
- ⑪ 交流の輪を広げよう
- ⑫ 研究室だより
- ⑬ キャリア支援課だより
- ⑭ キャンパス彩々
- ⑯ 鎌田客員教授 講演会／実習報告会／卒業生市長誕生  
教職員人事／岐経大クイズ

スポーツ経営学科4年  
関商工高校出身  
**石原 明奈**

経済学科4年  
広島新庄高校出身  
**岡田 達弥**

経済学部教授  
**石原 健一**学長

# 石原学長が語る！ 岐阜経済大学の現在と未来

学長に就任されて1年が経ちますが、  
今一番力を入れて取り組まれていることはなんですか？

近い将来、大学は『2018年問題』（120万人前後で横ばいに推移していた18歳人口が、2018年度以降、再び減少し、2023年度には107万人にまで減少する問題）に直面します。人口が減ると中小規模の大学、約130校程度が存続の危機となると言われています。

そこで本学では、2018年度までに大学の経営基盤を強化するために学生募集を積極的に行い、学生確保に努めています。学生を集めるために、まず地域の『知の拠点』となることで、大学の社会的有用性を高め、大学本来の使命である教育、研究に一層専念して、その成果を地元に還元することに力を入れています。もう一つは、学生が減少するということは、当然、収入に影響してくるわけですから、財政を健全化することにも力を入れています。

本学の教育理念には「地域との共生」がありますが、  
地域からの期待にどのように応えていかれますか？

本学の先生方は県や市の様々な審議会の委員を委嘱されたり、地域の課題研究を受託されたりし



て、地域の『知の拠点』となることに大変頑張ってください。しかし、ある意味受け身なので、もっと積極的に地域の課題を見つけ、その解決策を見い出し、様々な機関に提言していく方向に持っていきたいと考えています。そのために本学には地域連携推進センターがあり、その下に3つの研究機関（地域経済研究所、情報技術研究所、ボランティア・ラーニングセンター）があつて、特に地域経済研究所（本学で一番歴史ある研究所）を強化し、大垣市に対する提言を行っていきたい。それには、教員だけでなく学生も巻き込んでいきたいと考えています。学生たちが地域の課題を発見し、解決策を提案していくという学習方法（サービスマーケティング）にも力を入れ、その成果を地元に還元していきたいと考えています。

学長が描かれている  
岐阜経済大学の将来像をお聞かせください。

18歳人口の減少は、どの大学にとっても非常に大変な問題ですが、首都圏の大学は学生確保にそれほど苦労はないと思います。現在でも18歳人口の約4割が首都圏の大学に、約2割が関西圏（京都・大阪）の大学に、残りの4割が全国北海道から沖縄の大学に進学しています。そして、中部地区は名古屋を中心にも多くの大学があるので、非常に激戦区となっています。そういう中で本学は、地域の『知の拠点』として大学本来の使命を全うして生き残っていくのが、当然の方法なのです。

もう一つの選択肢として公立大学法人化を目指すことを視野に入れています。本学は昭和42年（1967年）、岐阜県知事と大垣市長が、当時岐阜県には無かった社会科学系の大学を作りたいということで、音頭をとられ誕生しました。こうした歴史を踏まえて、本学の使命を追求していきたいですね。その一つの方法として公立大学法人化があるのではないかと考えています。全国にはその方法で公立化を成し遂げた大学がいくつかありますが、だからといって真似をするわけではなく、本学の歴史を振り返ってみて、もともとは公設民営として出発したという

原点復帰の意味で一つの選択肢としています。そして、地域の「知の拠点」となって大学の社会的有用性を高めることにより、地元大垣市や岐阜県の評価を高めて、その結果、学生確保に繋がっていく、そして財政も安定していくという将来像を描いています。

**どんな学生を育てたいとお考えですか？**

本学の建学の理念は、「地域に有為の人材を養成すること」なので、地域に貢献できる学生を育てたいです。そのために、地域の課題を探索し、解決策を見出し、提案できる学生を育てたいです。

もう一つは、本学はスポーツに力を入れていますが、大学生活は勉強だけではなく、課外活動も大きなウエイトを占めています。スポーツだけでなく、文化系のサークルですが、スポーツクラブの強化、準強化クラブ合わせて8団体それぞれを育てることによって文武両道の学生を育てていきたいです。また、グローバル化時代と言われていますので、海外へ行っても物怖じしない学生を育てたいですね。

**本学は就職率が高い大学ですが、キャリア教育でなにか工夫をされているんですか？**

現在の大学教育改革というのは、ほとんどアメリカ



の大学教育の真似でした。進学率が20%だった頃に大学へ進学する人はエリートと言われていましたが、文部科学省の方針もあり、1990年代に2人に1人が大学へ進学する時代になりました。その結果、目的意識が希薄なまま大学に入ってくる学生が増えたことが問題に挙がり、初年次教育が重要になり、初年次教育学会も設立され、世界の大学が対策をとるようになりました。

そのうちのひとつとしてキャリア教育が注目を浴びるようになり、そういった中で本学は比較的早くキャリア教育に取り組み、模擬面接等就職対策やキャリア形成の講義に力を入れてきました。

また、ハローワークと提携した全国で初めての取り組みを企画・実施し、非常に評価されています。他県では希望にかなう企業がなければ就職しない学生が多いようですが、岐阜県の学生は「就職したい」という意識が強いため、就職対策に力を入れています。本学は地元の有力企業が役員・評議員を務めてくださっているため、そういった企業との関係で他大学より就職率がいいということになります。

**駅伝部をはじめ、スポーツ系クラブの活躍が目立ちますが、今後どのような育成をお考えですか？**

本来、クラブ(課外活動)は学生の自主的な活動で、学生自治を尊重し、学生会に活動資金を提供し、学生が自主的に運営するという形をとってきました。しかし、世界ポルト選手権大会が長良川で開催されたとき、法人と地域からの要請を受けて本学がポルト部を立ち上げることになりました。学生に不公平がないようにするために、それまでであったクラブにもそれなりに力を入れようと、当時頑張っていたクラブを含めて、強化指定クラブが作られました。

当時はポルト部、硬式野球部、陸上競技部の3つでしたが、多くの学生の要望があり、強化指定クラブを2つ(サッカー部、男子バレーボール部)、準強化指定クラブを3つ(女子バレーボール部、女子ソフトボール部、駅伝部)増やしました。各クラブが切磋琢磨することによって、お互い力を付けてほしいですね。クラブが活躍することにより、クラブに入っていない学生も自分の大学を誇りに思うし、地元、大垣市民の方も喜んでくださる。学長室に駅伝部の写真が飾ってあるのですが、これも住民の方が岐阜新聞社まで行って写真を拡大して大学まで届けてくださいました。大学の社会的有用性を高めるということは教育・研究だけではないということ、学生の課外活動も大学の評価を高める要素になります。

**最後に、私達学生に対するメッセージをお願いします。**

以前、本学の学生は「大人しい。」「良い子が多い。」と言われていました。そんな時、「いい子というのは何の特色もない。多少やんちゃの方がいい。」と言っていました。最近ではスポーツ経営学科ができてクラブが活発になってきたので、そういうこともありません。また、大学の雰囲気が大きく変えたのは、沖繩出身の学生が増えてキャンパスを明るくしてくれたことです。大学生なので当然勉強も課外活動も頑張ってもらいたいですね。

本学は6割の学生がクラブに所属しており、他大

学に比べて多いので嬉しい現象です。大学での4年間で、できるだけコミュニケーション能力を高め、社会に出て活躍できる、特に地元で貢献できる人間に育って欲しいと思います。

元アメリカ合衆国大統領のジョン・F・ケネディが「平和の戦略」というスピーチで、「無知を知って目を開く。学ぶことで心が開かれる。この地上で大学よりも美しい世界はない。」と言っていました。本学に入ってきた学生にとつて、大学での4年間がそういう場所であってほしいので、我々教職員がそういう大学を目指して頑張らなければいけないと思っています。学生のうちは失敗してもいいから、とにかくチャレンジをしないさい！失敗を恐れずに色々なことにチャレンジし、そこから力をつけて社会に出て能力を発揮してほしいですね。



# カクジヨセリンアカさん

**日本に留学しようと思ったきっかけはなんですか？**

小学校4年生の歴史の授業で戦後、急速に復興を果たして経済大国となった日本を知り、どんな国なのか興味を持ちました。また、父が日本で仕事をしていたのも一つのきっかけです。

**大学に入学して2年が経ちますが、大学には慣れましたか？**

まだ完全には慣れていません。いつも使っている教室や施設場所はわかりませんが、学内にはまだ知らない所があつて、迷つてしまつてもあります。

**大学の印象はどうですか？**

先生がとても優しいです。学生数がそれほど多くないので、一人ひとりの学生をよく見てくれて、その人に合った接し方をしてくれます。困つていたら助けてくれるので、すごく頼りになる。何回でも相談します。

**休みの日は何をしていますか？**

福祉施設でアルバイトをしています。休みの日は日本語の「コミュニケーション」をとる相手がいないので、できるだけ人と接する事ができるアルバイトをしようと始めて始めました。お年寄りの食事補助や服の着脱などの手伝いをしています。お年寄りは色々なことを教えてくれるので、すごく楽しく、勉強になります。



**入学時にチャレンジしたいこととして「漢字」の苦手克服を挙げていましたが、克服できましたか？**

漢字はまだちょっと苦手です。パソコンを使うようになって読める漢字は増えました。が、今まで書いていた漢字が書けなくなつてしまつています。

**これから頑張りたいことは？**

日本人の友人が少ないので、これからもっと増やしていきたいです。しかし、私は積極的に話しかけるのが苦手なので、見かけたときに話しかけてくれたら嬉しいです。

また、マーケティングやマネジメントに興味があるので、チャンスがあれば大学院に進学して、専門的な知識を深めたいです。

**将来目標はなんですか？**

母国のコートジボワールと日本に繋がりのある企業に就職して、2つの国の懸け橋になりたいです。

本学には、将来の夢に向かって一生懸命努力している学生やこれまでの生活を振り返って自分を変えようと心がける学生、4年間の学生生活をとおして大きな成長を遂げた学生など様々な学生がいます。そのなかのほんの一部ですが、様々な分野で活躍している学生たちに話を聴いてきました!

# 米田 天明さん

**駅伝部での1年間を振り返っていかがですか？**

個人としては、中学から始まった陸上人生の中で一番の喜びと悔しさを味わった1年でした。チームとしてはトータルで考えると、良いスタートが切れたと思います。中身を区切ると良かったことや悪かったことがあるかもしれませんが、創部1年目でこれだけ中身のある1年を送れたのは、これから長く歴史を重ねていく上で、明らかにいいスタートが切れたと思います。5年をかけて経験することを1年で経験したと言つても良いかもしれませんね。

**全日本大学駅伝への出場を決めたときの気持ちはいかがでしたか？**

確かに嬉しかったし達成感もありましたけど、自分が予選会前に想像していたものよりも小さかったですね。「あつ、決めちゃつた」みたいな感じが強かったです。あと、取材が多くて喜びに浸る暇がありませんでした(笑)

また、大学として初出場というより、岐阜勢として32年ぶりの出場の方に強い想いがあり、これまでOBの方々挑戦しても辿り着けず積み重なつた32年を打破できたことは誇りに感じました。その32年の思いを背負って走る責任も感じました。

**駅伝部での経験をとおして、変わったところはありますか？**

まず、競技はもちろんです。寮生活をおおして周りに合わせられるようになった。以前は一人暮らしで好き勝手やっていたので、寮生活は制限があり窮屈なこともありました。しかし、だんだん自分中心の生活ではなくチームのために我慢して周りにあわせて、良い意味で一歩引くようになった。それによって視野が広くなり、周りの変化に敏感になったので、自分の成長にも繋がつたと思えます。



**いま、一番に残っていることは？**

心に残っていることは、喜びと悔しさの両方があります。喜びは全日本大学駅伝へ出場を決めたこと。悔しさは、その全日本大学駅伝と東海学生駅伝に出場できなかったことです。むしろ喜びより悔しさの方が強いかもしれません。学生駅伝で活躍することがこの1年の目標でしたが、それができなかった悔しさは毎日思い浮かぶといつか感じますね…。

しかし、それらに向けた努力は将来に活かせると思うので、これを機に成長できたことをいずれ見せたいです。

**後輩にメッセージをお願いします。**

もちろんです。監督の指導は大切ですが、チームは監督主体ではありません。選手主体で動くものです。監督の指導を受けるだけでなく、自分で考えて積極的に行動に移していきたまには自分から監督に主張したりしても良いと思います。もっとアクティブになって目つ大学生らしい強さを兼ね備えた選手になってほしいと思います。



第45回全日本大学駅伝対校選手権大会東海地区選考会にて

# 白井 貴大 さん

白井さんをどの行事でもお見かけするのですが、今、このクラブ活動に所属していますか？

今は、ボランティア・ラーニングセンター（ボラセン）、HIGEBU、まちなか共同研究室マイスター倶楽部、メディアソサエティサークル、岐経祭実行委員会の5つに所属しています。主にボラセン、ボランティア関係のクラブが多いです。

なぜ、複数のクラブに所属しようと思ったのですか？

私は、小中学生のときから地域の清掃活動に参加し、その他にも様々なボランティア活動を行ってきました。そのせいかボランティアが好きになり、空いている時間があれば、人の役に立つことをしたいと考えてるようになりました。大学に入学したときは多くのクラブに所属しようとは考えておらず、最初にHIGEBUに入りましたが、先輩からの誘いがあり、ボラセン、マイスターなどで徐々に増えていきました。

以前から何事も挑戦するタイプでしたが、

そうですね、元は保守的な性格でした。大学に入学して高校までの生活を振り返り、今のままで何も変わらなそうと思いましたが、学生生活最後の大学で、社会に出る前に色々なことを経験して慣れたいとおもったことが一つのきっかけです。また、将来は社会福祉の教員に就きたいと考えているので、人々のコミュニケーションをいけることも大切だと思い、自分から行動してみようと思えました。



今、一番精力的に取り組んでいるのはなんでしょうか？

今は、ボラセンの活動です。3月になれば、先輩方が卒業されて、予定では各学年で1人選ばれる、副代表になる予定です。副代表になれば、みんなをまとめることや情報を共有することなど重要な役割があり、責任が重くなると思います。今は、来年に向けて、現在の担当である広報業務をおもって、色々なことを学んでいる真ん中ですね！

今後挑戦したいことは？

来年からは、普段の講義に公共政策の専門科目が増えてきます。学業もあそそかにできないので、しっかりと勉強したいです。そこで学んだことをボランティアなどで実際の場面で活かしていきたいですね。



ボランティア・ラーニングセンターで企画した、留学生との交流会にて

# 自分街道まっしぐら

# 中島 亜季 さん

ラジオ局でパーソナリティをしているのですが、具体的にどのようなことをされていますか？

「月曜モーニングライン」という生放送の番組で、毎週月曜午前7時から9時の2時間、パーソナリティを務めています。機械を操作しながら話したり、音楽を流したりして色々な情報をリスナーの方に伝えていきます。

番組の中では10分間のコーナーも持たせていただいているので、テーマに沿って自分で原稿を作っています。今は1月から、私の好きなスポーツの陸上競技をテーマにジョキングのコツや怪我のケアの仕方などを紹介しています。

パーソナリティを始めたきっかけは？

声の仕事には幼いころから興味がありましたが、それと同じくらいスポーツも好きで、最初は、体育の教員免許を取得したくて岐阜経済大学に入学しました。入学後に子ども達とスポーツをしながら触れ合えるサークルに入りました。そこで活動するうちに、子どもにスポーツを教えるという一つの目標が、自分のなかで叶ってしまったのです。だからもう一つの夢だった『声の仕事』をやる目標も叶えてやるつもりになりました。

『声の仕事』を目指すにあたり、行動しなければ何も掴めないと思い、自らラジオ局に向き、ボランティアですが、今の仕事をやらせていただくことになりました。

辛いことや大変なことはありますか？

朝7時開始の番組のため、朝4時に起きて発声練習をしています。今は寒い時期なので起きるのがちょっと辛いですが、凍えています(笑)

また、自分のコーナーの原稿を通学時間の中で作成し、出来たら局の方に確認してもらっているのですが、「読んでいて想いが伝わらなくて厳しお言葉



をよくいただけます。言葉で想いを伝える難しさは日々感じています。

この経験で学んだことは？

自分から一歩踏み出すことで、こんなにも世界が広がるのだと実感しました。目標は口に出して、どんなに辛い状況でも進むことを止めず、いろいろなことに挑戦し続けたいは叶うと思います。「無理かも」とか「できる訳ない」という考えを壊していった者勝ちだと思えます。

今後の目標は？

声だけで多くの人を感動させられるエンターテイナーになります！



中島さんの番組は「FM5ら76.8MHzで聴くことができます。是非聴いてみてください！」

今年度も本学の伝統行事である、岐経祭と学内ゼミナール大会が開催され、両行事ともに学生が一丸となって運営に携わり、大いに盛り上がりました。

# 岐経祭2013



11月16日(土)、17日(日)、岐経祭2013を開催しました。今年のテーマは「Move」。このテーマには、「今までの色を残しつつ、新しいことにも挑戦していき、来ていただいた人に岐経祭を楽しんでもらいたい、その中で一人ひとりの心を動かしたい。」という思いが込められていました。今年度はサブステージをなくし、メインステージで全そのイベントを開催し、より多くの方にイベントに参加してもらえるようにしたのも新しい挑戦の一つです。

両日ともに天候に恵まれ、様々な楽しい企画や色とりどりの模擬店など、大いに盛り上がった学園祭となりました。



## 岐経祭2013を終えて

岐経祭実行委員長  
 スポーツ経営学科3年 近畿大学附属新宮高校出身 **岡本 悠幹さん**



私が実行委員に入ってからはや3年が経ち、気付けば自分が実行委員をまとめる立場になっていました。正直うまくまとめられるか心配でしたが、最後まで頑張ってくれた実行委員のみんな、学生会の皆さん、教職員の方々、そして来てくださった皆さんのおかげで、『岐経祭2013』を成功させることができました。

入学式の時に変な先輩たちに勧誘されて、始めはお試しで入ったつもりでしたが、いつの間にか溶け込んでいき、1年目の学祭を経験したときの達成感が忘れられず、3年間やってきました。決して、楽ではないけれどそこには楽しめる場所があり、仲の良い個性豊かなメンバーがいて、とても居心地がよかったです。

委員長を任せられ、全体を見なければいけない立場になり、とても

苦勞しました。しかし、しっかりと同期のメンバーが支えとなってくれたおかげで、私も実行委員を支えることができたのだと思います。

また、学園祭の実行委員を通して沢山の友達と関わりを持つことができ、イベント会社さん、地域の企業、他大学の学園祭実行委員のみんな、大学の先生方と深く関わっていくなかで、自分自身もとても成長することができました。

なにか楽しいことがやりたい、他大学の友達と関わりを持ちたい、学園祭の運営に携わりたいと思ったら、実行委員に入ることをオススメします。最高のメンバーが皆さんを『かんげい!』します。

第41回

# 学内ゼミナール大会



12月4日(水)、第41回学内ゼミナール大会を開催しました。本学のゼミナール大会は、ゼミごとにテーマを持ち、協力して調査・研究を行い、まとめあげた成果を発表する大会です。大会の準備や運営は学生が主体的に行い、これまで40年間続いている本学が誇る伝統行事です。発表後は、指導教員とは別の複数の教員による審査が行われ、5会場それぞれで1チームの優秀ゼミが選出されます。

この大会に参加することにより、共通の目標に向けて共に学び、協力し合い、学生達が更なる課題に向かって学習を深める契機ともなっています。

なお、発表した内容は、最終的に「学生論叢」として1冊にまとめられ、大学の学びの集大成として結実します。

菅谷ゼミ  
社会保障共通番号  
—マイナンバーについて—



## 優秀賞

菊本ゼミA  
広げよう保育の輪  
—大垣市子育て日本一への道—



小倉ゼミB  
ブラック企業の経営分析



岸ゼミ  
体罰指導者は本当に悪なのか？  
—社会的勢力理論からの検討—



樋下田ゼミB  
学内から始める環境への第一歩  
—顔が見える信頼づくりを目指して—



## ゼミナール大会を終えて

ゼミナール大会運営委員長  
スポーツ経営学科3年 八幡商業高校出身 **藤井 恒太さん**



12月4日(水)、第41回学内ゼミナール大会が開催されました。今年度は、28ゼミ36チームが参加し、それぞれ興味深い、特徴あるテーマで日頃から調査・研究してきたことを発表しました。

私は、本大会の運営委員長として、前例にとられない委員長を目指すと同時に、自分が所属する演習IIと教職ゼミのゼミ長として賞をとることを目標に掲げていました。しかし、発表準備では連日夜遅くまで先生やゼミの仲間にご助けをいただき、ゼミナール協議会でも教務課の職員の方、2名の副委員長にいつも支えていただいたからこそ、この大会を無事開催し終えることができたと思います。

今後もゼミナール大会は継続して開催されていきますが、前例にとられず、慣例にとられず、より良い大会を目指してもらいたいと考えています。また、私にはでき得なかった改革を期待しています。最後になりましたが、この大会のために早期からご尽力いただいた教職員の方々、そして主役である学生の皆さん、本当にありがとうございました。



駅伝部

TRACK AND FIELD

# 全日本大学駅伝(初出場)・ 東海学生大学駅伝の結果



# 輝け! アスリートたち

11月に行われた秩父宮賜杯全日本大学駅伝対校選手権大会では、目標を17位としていましたが、23位という結果になりました。選手一人ひとりが大舞台で力を発揮できず、不甲斐ない結果に終わり、部員一同、悔しい思いをしました。

また、12月の東海学生駅伝対校選手権大会では、今年の出雲駅伝出場を目指し、優勝を狙っていましたが、優勝した大学と64秒差の4位でした。全日本大学駅伝より力を出すことはできましたが、目標に届かなかつた敗因は力不足だと感じました。この2つの大会をとおして、自分たちに何が足りないのかなど課題が見つかり、来年度へ繋がる1年目となりました。



## 駅伝部主将 荒木 優治さん

(スポーツ経営学科3年 愛知黎明高校出身)

この1年を振り返り、創部3カ月で全日本大学駅伝への切符を掴み、駒澤大学との強化夏合宿など様々なことが経験できました。初出場の全日本大学駅伝では、全国レベルとの差に圧倒され、自分達の力を出し切ることもできませんでした。そこから1カ月後の東海学生大学駅伝では、優勝を狙いに行ったにもかかわらず、4位という結果に、自分達の勝利に対する気持ちの甘さを痛感させられました。

1年間を通して上手くいった全日本大学駅伝東海地区予選会、上手くいかなかった全日本大学駅伝と東海学生駅伝。良かったことも悪かったことも含めて、本当に貴重な経験ができました。

今、個人として見たときに5000mを14分台や15分台前半で走る選手が増えてきて、順調に記録をのばしています。しかし、チームとして見ると全日本で戦うどころか、東海地区で1位にもなりません。この1年間経験してきたことをバネに、来年度もチーム一丸となって「結束」を大切に頑張っていきます。



女子ソフトボール部

WOMEN'S SOFT BALL

# 岐阜経済大学の名を全国に



## 女子ソフトボール部主将 大塚 友紀さん

(スポーツ経営学科3年 本巣松陽高校出身)

私たち女子ソフトボール部は、2013年の春、新1年生8名を迎え、総勢19名となりました。そして、春季リーグ戦で一部復帰を果たすことができました。しかし、目標にしていた全日本大学選手権への出場は果たすことができず、悔しい思いをしました。そんな思いを胸に臨んだ秋季リーグ戦では、一部4位という結果でした。まだまだ満足いく結果ではありませんでしたが、今まで足元にも及ばなかったチームと接戦、延長まで持ち込むことができ、次につながる内容だったと思います。

2014年は4年生になる私たちにとっては、大学最後のシーズンとなります。絶対に悔いを残さないために、このメンバー全員で必ず全日本大学選手権に行きます。そして全国に、岐阜経済大学の名を残したいです。これが来年度の一歩の目標です。





## 陸上競技部

TRACK AND FIELD

# 全国大会リレー2種目で入賞の快挙!!

天皇賜盃 第82回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子4×100mリレー 6位  
第97回日本陸上競技選手権リレー大会 男子4×400mリレー 8位



▲全日本インカレ(国立競技場)



▲日本選手権リレー(日産スタジアム)

秋に開催された二つの全国大会のリレー種目において6位と8位に入賞しました。東海インカレと西日本インカレのマイルリレーで初優勝を飾り、全国ではレベルの高い関東勢に挑み、念願のリレー2種目入賞を果たすことができました。また若いチームなので、来年度のリレーや個人種目で更なる飛躍が期待できます。

### 【大会結果】

#### ●天皇賜盃 第82回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子4×100mリレー 6位入賞!

予選 40秒07

決勝 40秒19

東 魁輝(スポーツ経営学科2年 伊勢工業高校出身)  
増田 貴(スポーツ経営学科3年 島田樟誠高校出身)  
山本 智也(スポーツ経営学科3年 水口高校出身)  
加藤 慎也(スポーツ経営学科2年 桑名工業高校出身)

#### ●第97回日本陸上競技選手権リレー大会

男子4×400mリレー 8位入賞!

予選 3分12秒24

決勝 3分13秒17

東 魁輝(再掲)  
高橋 拓也(スポーツ経営学科3年 岐南工業高校出身)  
山本 智也(再掲)  
瀬戸上 智(スポーツ経営学科3年 伊勢工業高校出身)



## ボート部

BOAT

# 田中 敏彦さん 第40回全日本大学選手権大会 準優勝 大垣市体育連盟表彰 優秀選手賞受賞



昨年8月22日(木)から25日(日)、埼玉県戸田ボートコースで行われた、第40回全日本大学ボート選手権大会の男子シングルスカルにおいて、田中敏彦さんが準優勝となりメダルを獲得しました。  
また、田中さんはその結果が評価され、1月11日(土)、大垣市情報工房スイングホールにおいて行われた平成26年公益財団法人大垣市体育連盟表彰式で、優秀選手賞に選出され表彰されました。田中さんは「卒業後もボート競技を続ける予定なので、満足することなく全国レベルの大会での優勝を目指したい。」と力強い意気込みを聞かせてくれました。  
**田中 敏彦さん**  
(スポーツ経営学科4年 岡谷東高校出身)  
私は、第40回全日本大学ボート選手権大会において男子シングルスカルに出場し、準優勝を勝ち取りました。予選では、以前、勝てなくて苦しんだ相手と勝負して勝つことができ、タイムを見ると全体の2番ということでした。スタートを切ることができました。準決勝では、予選でいい位置につけていたので組み合わせがよく、決勝をイメージした形でレースを行い、危なげなく決勝に進出しました。決勝では最初から出し切っていき、後半には自信があったので、とにかく相手についていき後半でアタックしました。見事アタックが決まって2位となり、メダルを獲得することができました。4年間を通して一番納得のいくレースができ、結果を出すことができましたので本当に良かったです。



## 女子バレーボール部

WOMEN'S VOLLEY BALL



## 男子バレーボール部

MEN'S VOLLEY BALL



11月3日(日)、第151回岐阜県大学リーグ秋季大会が行われ、1部リーグにおいて本学男子・女子バレーボール部がアベック優勝を果たしました。男子は決勝において3年連続で優勝を目指していた朝日大学と対戦し、ストレートで勝利。女子は準決勝、決勝ともにストレート勝ちで優勝を勝ち取りました。

# Close up 指導者の声



## 揖斐祐治監督の恩師 瀬古 利彦さん

元陸上競技・マラソン選手、現役引退後はエスピー食品陸上部監督に就任。現在はDeNAランニングクラブ総監督を務める。



瀬古利彦さんから

### 駅伝部の皆さんへ

皆さんの競技では監督から言われたことは絶対です。監督を信じて競技に向かうことが栄光に向かう道なのです。スピード強化よりもまず「土台作り」です。長い距離をまずはゆっくりでいいから走れるようになりなさい。

建築物でも「基礎」が大切です。しっかりと、しかも長い時間建っていられるのは基礎がしっかりしているからです。そして高いビルこそ基礎がしっかりしていなければ建てられないのです。土台を作れ！スピード持久力を養う基礎を！ブレない体幹と絶大なスタミナができてこそスピード持久力なのです。「30kmなんていつでも走れるぞ」という基礎です。これは中村清先生の教えです。中村先生が唱えた「リディアード式マラソントレーニング」では、800mの選手も週に1度は30kmを走ります。この土台ができれば駅伝のみならずマラソン選手としても成功するでしょう。皆さんのことを応援しています。頑張ってください！

瀬古利彦さんから

### 揖斐監督へ

何事もすぐには結果を出せるものではありません。やると決めたら腰を据えて目標に向かってください。チームとして全員がしっかりと練習ができるようになるには4~5年はかかるでしょう。ここまではしっかり頑張ってください。そして選手にその意味を理解させてください。監督は己の信念をブレさせてはいけません。貴方が私から教わったことは決して間違っていないです。なぜなら中村清先生の教えでもあるからです。50年以上に渡って受け継がれた練習法なのです。

率直に学生たちがよく頑張りました。数少ない上級生が上手くリーダーシップを發揮し、数が多い下級生をまとめ、駅伝部一丸となつて全日本大学駅伝の予選会を迎えられたのが良かったと思います。またチーム内で学年関係なしに「絶対に全日本大学駅伝で走ってやるんだ」という雰囲気及早く作れたことが大きかったと思います。創部当初、1、2年はチーム組織としての基礎、競技者としての身体の基礎作りの年に

**ほとんどが1年生ということでの今後の成長が期待できますが、打倒関東・関西に向けてどのような計画をお考えですか？**

今回の全日本大学駅伝では23位という結果でしたが、初出場や1年生主体のメンバーエントリーを考えると妥当な順位だったと思います。全日本大学駅伝後、学生達は全日本での自分達の力の位置を冷静に見て、全日本を走ったからこそ出せる目標が掲げられるようになり、結果より得るものが多い大会でした。この23位からいかに上に行くかが今後の課題です。

上位校を見るとどの大学も創部50年を超える部が多く、伝統と全日本大学駅伝を数多く走ってきた経験の積み重ねが結果を生んでいます。本学が関東・関西の大学に挑むには、10年20年単位のスパンで計画を立て、選手の育成や強化をしていくことが必要です。また在学生の育成も大切ですが、今後を背負うジュニア層の強化を本学のグラウンドで行い、その中から岐阜経済大学で走りたい選手を長い目で育てていくことも計画にいられて考えています。



## 駅伝部を 全国大会へ導いた 揖斐 祐治 監督

揖斐 祐治 監督



**本学駅伝部の魅力は？**  
学生たちが主体となり、常に問題や課題に対して真剣に向かい合い目標を立てて成長していけることです。

**来年度の抱負は？**

来年度は、東海地区からの全日本大学駅伝の出場枠が1校になります。本当の力を試されるのは初出場した次の年も連続で出場できるかだと思っていますので、何があっても出場権を勝ち取りたいと思います。

**駅伝部の学生たちへメッセージをお願いします。**

来年度こそが勝負の年になります。強いチームになれるかなれないかが掛かってくるので、駅伝部一丸となつて頑張ってくださいませ。



### 日本に留学しようと思っただけじゃあ？

小学校3年生の時から日本のアニメ(ナルト)を好きになり、大学試験を受けて、日本語を選びました。最初はアニメだけでしたが、日本語の勉強をとおして、日本の文化(食べ物や生活様式など)や日本人の礼儀正しさ、あるいは日本自体に興味をもつようになり、いつか日本へ行くことに決めました。ちょうど私が中国で通っている大学(江西師範大学)に交換留学というプロジェクトがあり、それに応募し、日本へ留学することになりました。

### 日本、岐阜経済大学に対する印象は？

日本のイメージは中国とほとんど同じだと思ひ、最初日本に来たとき、あまり実感がありませんでした。しかし、人と接することで、やはり違うと思ひました。

一番感心するのは日本のサービス業です。一人ひとりのお客さんを大事にしていると感じました。次に、生活の質の高さです。ある日本人から、日本人は価格より、性能がいいものを選ぶのだ、という言葉が聞きました。必ずしもみ

### 邓卿(トウキョウ)さん <経済学科>

生年：1994年

血液型：AB型

出身：中国

大学：江西師範大学

趣味：音楽、アニメ、マンガ、フード



### 大学でチャレンジしたいことは？

私がチャレンジしたいことは4つあります。

1. 友達をたくさん作りたいです。
2. 最近、軽音部に入ったので、いつか軽音部の人とライブをやりたいです。(しかし、今はみんな自分のチームや練習相手がいて、まだみんなと一緒にやれていないので、来年の新入生のためのライブを期待しています。)
3. 今はやっていないと聞きましたが、留学生向けの弁論大会に参加したいです。
4. TOEICの試験を受けたいです。

## 石原健一学長 江西師範大学を訪問



石原健一学長は、11月5日(火)から8日(金)、岐阜県と江西省との友好提携25周年記念事業 岐阜県代表団の一員として、中国江西省を訪問し、各種記念事業に出席しました。

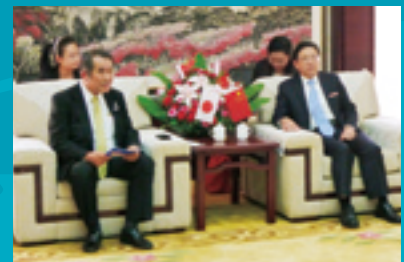
6日(水)午後には、本学と教育學術交流協定を締結している江西師範大学を初めて訪問しました。同大学では、梅 国平学長をはじめ、副学長、国際合作与交流処、国際教育学院の関係者が同席する会談と本学学生が在籍している国際教育学院の学生との交流会がありました。

会談では、梅学長から大学の沿革、規模、学部学科構成、国際交流状況についての説明があり、さらに、現在の協定内容を発展させたい旨のお言葉をいただきました。続いて石原学長から、江西師範大学の温かい歓迎に対して、感謝の意を表した後、本学の設立の経緯や特徴

などの説明を行いました。

その後、本学学生が交換留学生として在籍している江西師範大学国際教育学院に場所を移し、留学中の学生、同学院の学生との交流会に参加しました。その場では、非常に活発な質問のやりとりがあり、当初の予定時間をオーバーするほどでした。

今回の訪問は、非常に短い時間でしたが、両大学の交流協定の更なる発展につながる有意義なものとなりました。



▲ 梅学長との懇談



▲ 江西師範大学関係者の方々との記念写真



▲ 国際教育学院の学生との交流会



▲ 中央 江西省 副省長 謝 茹氏  
右側 江西省教育庁 副庁長 郭 奕珊氏



# 無駄な公共事業とは何か

経済学部

かつた みほ  
**勝田 美穂** 教授



私は公共政策論のなかでも公共事業について研究をしています。この大学に赴任したのは三年前で、それまで多くの時間を民間のシンクタンク(文系の研究所)といったものでして過ごしました。経済産業省の仕事が多かったのですが、全国の地方都市を廻り、地域の経済活動を活発にするための政策を考えてきました。

の意味そのものでした。

90年代の後半頃に産業空洞化ということが言われるようになりま。それまで、地方では工業団地を整備して、企業を誘致することが仕事をつくるための重要な方策だったので、それが難しくなりました。行政の仕事は、多くの人が関わり調整をするので、物事を決めるのに時間がかかります。計画した基盤整備の計画が十年後に実現しても、その時には必要のないものになっていることがあります。なぜ、ある時期、ある人たちに比べて、必要だと考えられたものが、できたときには無駄と言われるものになってしまうのだろうか、私が知りたいと思ったことは、自分の仕事

国の財政が苦しいことが大きな原因なのですが、十年ほど前に集中して、高度経済成長期に整備された公共事業を進めるための制度が整理、縮小されました。そうした動向を見て、これまでの公共事業を進める仕組みは変化せざるを得ない、ということをもとめたのが私の博士論文です。公共事業を進める仕組みは社会のなかに根を植えたもので、公共事業の変化は、社会のあり方そのものの変化につながることを予見しようと試みました。それはある部分ではあたっていたのではないかと今も考えています。

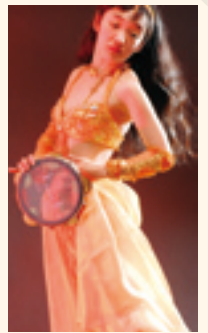
公共事業の研究は、一定の整理をつけたと考え、近年はマイノリティーが参加して法律をつくるということに関心を移していたのですが、旧年12月に国土強靱化法という法律が新たに制定されました。世の中全体が復古的な動きを進めるなか、社会のあり方は回帰を決定的にするのか、今年には公共事業の動きを注視していきたいと思っています。

## PROFILE

1965年に東京で生まれ、中学・高校は女子学院で過ごしました。日本で最初にできた女子校で、制服が無く、土日が休みという自由な校風で知られる学校です。大学は早稲田大学で、法律を学びました。30歳を過ぎた頃に仕事の傍ら、当時、できたばかりの法政大学の夜間大学院に通い、政治学の修士号と博士号を取得しました。この大学に来るまで、東京以外の場所に住んだことがありません。車の運転ができないなど、生活が成り立つかどうか不安だったのですが、なんとかやっています。

## 趣味拝見

趣味は歌とダンスです。歌は主に洋楽で、クラシックからラップまで歌います。高音をきれいに出すことと、難しい曲を歌いこなすことに取り組んでいます。仕事とは全く関係のないカラオケ仲間恵まれ、年に1~2度、朝からひたすら歌う会をやっています。運動は得意ではないのですが、学生時代からずっと週末はスポーツクラブに通うのを習慣づけています。ベリーダンスも長く続けています。



## 近著紹介



**Automatic Generation of 3D Building Models from Complicated Building Polygons (複雑な建物境界線に基づく3次元建物モデルの自動生成)**

コンピュータ・グラフィックス(CG)で作る都市の3Dモデルは、都市計画、まちづくり、景観などの場で活用が期待される重要な「情報インフラ」です。住民、地権者、行政、デザイナーが現状と整備案の3Dイメージを共有し、改善案や代替案を検討していくことがよりよいまちづくりにつながります。しかし、これらの3Dモデルを作るために、3次元CGソフトを用い、多大な労力を掛けて作成しています。そこで、本研究では、電子地図に基づいて、地理情報システムとCGを統合化して、3Dモデルを自動的に作成するシステムの開発に成功しました。

なお、論文が採録されたASCEはアメリカ土木学会で、世界の最先端の土木技術の研究結果を発表する場です。

杉原 健一 教授  
共著論文  
アメリカ土木学会  
ジャーナル  
2013年9月



**THE-VOICE~指導者たちの温故知新~ 一流の「スポーツマンのこころ」選手がこれを理解すれば頑張れる**

このDVDの内容は、私の1996-7年のドイツ留学で生じた、スポーツに対する心構え(Einstellung)の日独間での大きな相違への疑問をきっかけとする考察が、10年の歳月を経て2007年に「スポーツマンのこころ」として結実し、さらに、スポーツ精神医学的に、この心構えの有効性を2011年に医学博士論文として実証したものです。この心構えの中核にはスポーツを「楽しむ」ことへのこだわりがあり、「楽しむ」ためにゲーム(試合)に向けて自らを研鑽し、仲間としてのライバルを喜び、さらに、スポーツを創るすべての人や環境に感謝するということです。この心構えを理解することによって、日本において明治維新以降存続し続けている誤ったスポーツ理解と、それに伴う指導上の悪弊(暴力・暴言etc.)を修正するスタートが切れます。

高橋 正紀 教授  
DVD  
ジャパンプライム  
株式会社  
2013年11月

3		2				1	12			11				10			月	日				
15	8	22	15	14	9	8	7	11	14	11	1	30	27	20	13	9	30	23	16	9	日	
就職特別講座⑦	就職特別講座⑥	就職特別講座⑤	就職特別講座④	学内就職セミナーII	第2回就職合宿		学内就職セミナーI	就職特別講座③	就職特別講座②	金融セミナー③	第1回就職合宿	金融セミナー②	業界研究講座②	金融セミナー①	就職特別講座①	業界研究講座①	体育会系就職講座	Uターン対策講座	体育会系就職講座	内定者報告会	就職講座名	日程

就職講座2014

第1回就職合宿

3年次の秋！就職応援プロジェクト

2014年3月卒業予定者の就職環境は、景気回復で内定率がアップしましたが、消費税導入による消費の冷え込み等不透明で依然厳しい状況が予測されます。また、企業が学生を厳選して採用する傾向は一層強まっています。本学では、3年次の10月から本格的な就職準備として就職講座を開催しています。就職講座に積極的に参加することにより、視野を広め、業界・企業規模に偏らない万全の就職準備をしてください。



▲会場 大垣フォーラムホテル

11月30日(土)・12月1日(日)、(各)中部学就支援の今校正史代表を講師に迎え、第1回就職合宿が開催され、3年次生50名が参加しました。  
本合宿は、チューター(4年次の内定者)がサポートし、1泊2日で面接を集中指導し履歴書を完成させます。参加者からは厳しい就職活動をやり遂げる自信がいったとの意見が寄せられました。  
なお、第1回就職合宿が好評で参加できなかった学生の要望により、第2回就職合宿も2月8日(土)・9日(日)に開催しました。

インターンシップを実施

夏休みに23名の学生が、25企業・行政機関等でインターンシップを行いました。今年の実施先のテーマは「地元」でした。NHKの紅白でも「地元」に帰ろう」という歌が唄われましたが、本学の「地元」に深く関わろうと、大垣商店街のこだわりの文具(旬川崎商店や、大学近くの(有)サスポ・ヨシオ力)で実施させていただきました。他方、学生の出身地の福井や関でのインターンシップもありました(過去に沖縄での実施例もあります)。

実習先:(有)川崎商店

松山芽さん  
スポーツ経営学科3年 淡路三原高校出身

文房具が大好きだったので希望しました。インターンシップを通して業界のことを知ることができて良かったです。アットホームな雰囲気です。インターンシップ終了後も気軽に相談に乗っていただけるところになりました。この経験を就職活動に活かしたいと思います。

インターンシップ 実習先一覧(順不同)

- 【行政機関】**
  - 大垣公共職業安定所
  - 大垣市役所
  - 岐阜県庁
  - 関公共職業安定所
- 【民間企業】**
  - SMB C日興証券(株)
  - 株大垣共立銀行
  - 株大光
  - 大垣信用金庫
  - 旬川崎商店
  - 共立コンピュータサービス(株)
  - 株岐阜冠婚葬祭互助会
  - 株近鉄ホテルシステムズ 岐阜都ホテル(株)コバン
  - 株十六銀行
  - 旬サスポ・ヨシオ力
  - 東新土地(株)
  - 株中村不動産
  - 西美濃農業協同組合
  - 株日本旅行
  - ネットトヨタ福井(株)
  - ヒロタ(株)
  - ピアインシステム(株)
  - 矢橋工業(株)
  - ラブリークイーン(株)

●2013年度(2014年3月卒業者)主な就職内定先(順不同)

- 建設不動産業** 岐建(株)、セキスイハイム中部(株)、中電配電サポート(株)、長谷川体育施設(株)、三菱電機プラントエンジニアリング(株)、東急リパブル名古屋(株)
- 製造業** アズビル金門(株)、揖斐川工業(株)、MTK(株)、エンゼルプレイングカード製造(株)、大塚産業グループ、コマニー(株)、新興機械(株)、(株)砂崎製作所、大日本ボックス中部(株)、(株)ハウテック、(株)三笠・鉄螺
- 情報通信業** (株)インフォファーム、(株)コスモネット、パナソニックメディコムネットワーク(株)
- 運輸郵便業** 西濃運輸(株)、(株)上組、福山通運(株)、日本郵便(株)、濃飛西濃運輸(株)
- 卸売業** 朝日ガスエナジー(株)、(株)太田廣、清川(株)、クロスプラス(株)、サントリービバレッジサービス(株)、東邦ガスリビング(株)、ダンロップタイヤ中部(株)、中北薬品(株)、(株)福井近畿コボタ、米津物産(株)、山宗(株)、渡辺パイプ(株)

- 小売業** アブライド(株)、(株)アップランド、(株)杏林堂薬局、ゲンキー(株)、上新電機(株)、(株)ステップ、(株)ドラッグストアモリ、(株)ドン・キホーテ、(株)バロー、ブックオフコーポレーション(株)、(株)ユース、(株)ユニクロ
- 金融保険業** (株)大垣共立銀行、(株)沖縄銀行、東海東京証券(株)、関信用金庫、高山信用金庫、愛知みなみ農業協同組合、木曾農業協同組合、西美濃農業協同組合、陶都信用農業協同組合、とびあ浜松農業協同組合、ハイナン農業協同組合、三重中央農業協同組合、めぐみの農業協同組合
- サービス業** (株)アスカスポーツ、(株)エイチ・アイ・エス、(社)福)大垣市社会福祉協議会、(株)サンレー、(株)シティアーズ、(株)アスピカ、太陽建機レンタル(株)、(株)平安閣一宮本社、(社)友愛会 豊見城中央病院、(株)ベネッセスタイルケア
- 公務員** 静岡県教員、岐阜県警察官、富山県警察官、揖斐郡消防組合、磐田市消防本部、海津市消防本部

## 沖縄の伝統芸能エイサーで観衆を魅了 ～大垣の秋を彩る十万石まつり～

10月13日(日)、大垣藩十万石の城主を祀る常葉神社の例祭である大垣「十万石まつり」が、大垣駅通りで開催され、多くの人々で賑わいました。本学は同まつりの午後に行われる大人・企業みこしに例年参加しており、今年度は学生・教職員約90名で大垣駅通りを練り歩きました。

本学の隊列の先頭は、岐阜経済大学の横断幕を掲げる石原学長、竹内副学長、浅野副理事長、松井事務局長。続いて、エイサーを披露する沖縄県人会に所属する学生、そして本学のみこしを担ぐ学生、のぼり旗や鳴り物を持つ学生が続きました。

本部前でのパフォーマンスは、沖縄県人会の学生によるエイサー!! 大太鼓や締太鼓を手に力強い太鼓の音を響かせ、手足を大きく動かして躍動感ある踊りを披露しました。息のそろったエイサーの舞いは観衆の注目を集めました。



▲観衆の注目を集めた学生達のエイサー



# キャンパス 彩々 Campus Saisai

## サッカー場を8年ぶりに全面改修しました! 近々、陸上競技場も全面改修予定!

2005年、東海地区ではいち早く整備したロングパイル人工芝サッカー場を8年ぶりに全面改修しました。総工費約1億300万円、工期は昨年7月20日から9月20日の2ヵ月間。最新の人工芝と、フルカラーチップを使用し、夏場でも表面温度を抑制します。

正課の体育授業はもとより、東海学生サッカーリーグで活動し、一昨年、総理大臣杯全日本大学トーナメントに出場を果たしたサッカー部にとっては、最高の環境が整うことになり、更なる飛躍が期待されます。

また、サッカー場の横に位置する、全天候型1周400m4レーン(直線6レーン)の陸上競技場も近々全面改修予定で、こちらも学生たちの更なる成長が期待されます。



▲新しく整備されたサッカー場

## マイスター倶楽部が「防犯功労団体」を受賞

9月24日(火)、「全国防犯協会連合会設立50周年記念平成25年全国地域安全運動中央大会」が東京都港区で開催され、マイスター倶楽部が平成25年「防犯功労団体」として公益財団法人全国防犯協会連合会ならびに警察庁から表彰を受けました。

同クラブは、平成10年から「防犯コミュニティ研究グループ」を組織し、警察や防犯団体と連携した防犯見回り・啓発活動や地域安全マップの作成に取り組んできました。このように、長年にわたって地域安全活動を積極的に推進し、安全で安心なまちづくりに貢献したことが評価されました。

表彰式には、防犯コミュニティ研究グループリーダーの野田智之さん(経済学科3年)と同グループの土屋大樹さん(経済学科3年)が出席し、表彰状を受け取りました。これを受け、マイスター倶楽部防犯コミュニティグループでは、今後も積極的に地域の各機関と連携した安心安全なまちづくりを一層進めていきます。

公益財団法人全国防犯協会連合会設立50周年  
5年 全国地域安全運動中  
主催 (公財) 全国防犯協会連合会 / 警察庁



▲表彰式に出席した野田智之さん(右)と土屋大樹さん(左)

## 『日欧シンポジウム 都道府県の役割の再確認』を開催

9月28日(土)、本学講堂において『日欧シンポジウム 都道府県の役割の再確認』を開催し、自治体関係者や地域の方々約120名の方が聴講されました。

シンポジウムでは、フィンランド・タンペレ大学 経済管理学部教授 アルト・ハヴェリ 氏による基調講演『北欧の地方行政－福祉国家の地方における危機－』が行われました。講演では、フィンランドを事例として、福祉サービスの供給機能の強化により中央政府から地方自治体に移譲された事務が増加していることなどを説明し、北欧と日本を比較しながら、中間自治体の果たすべき役割について話されました。

その後、本学副学長・地域連携推進センター長 竹内 治彦氏をコーディネーターとして、立命館大学政策科学部教授 森裕之氏と本学経済学部専任講師 今井 良幸氏による、『都道府県制度の再考』、『わが国における事務配分と都道府県の役割』についてのパネルディスカッションが行われました。



▲パネルディスカッションの様子

## 学生による地域課題解決提案事業の成果報告会を実施



▲ソフトピア共同研究部の成果報告を行う武藤武さん

12月14日(土)、岐阜大学サテライトキャンパスにおいて、「学生による地域課題解決提案事業」成果報告会が開催され、11校17チームの大学・短期大学・高等専門学校が研究成果を発表しました。

本学からは、ソフトピア共同研究室、マイスター倶楽部、ボランティアラーニングセンターの3団体が参加しました。ソフトピア共同研究部の学生は「地域活動における疾病予防や健康の増進に関する実践的研究」をテーマに、岐阜県北方町における調査で見つけた課題解決のために、ウォーキングコースを案内する機能やスタンプラリーの機能を追加したスマートフォンアプリケーションを開発。若年層にもウォーキングを楽しんでもらえるように工夫したことなどを発表しました。

## 地域企業に支えられる本学の教育支援

企業人育成課程の「地域企業研究」はもとより、今年度は経済学部の「公共政策特論」の講義においても多くの企業の方や行政に携わる方に本学へお越しいただき、ご講話いただきました。

学生達は、それぞれの企業や行政の特徴・展望などについて学び、また、学生時代にやっておくべきことなどのアドバイスを受けました。学生達は、どの講義においても真剣に耳を傾け、メモを取っていました。

ご協力いただいた皆さまには、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

【ご協力いただいた団体・企業】(順不同)

・地域企業研究Ⅲ・Ⅳ

(株)トーカイ、揖斐川工業(株)、河合石灰工業(株)、矢橋工業(株)、サンメッセ(株)、イビデン(株)

・公共政策特論

大垣市、郡上市、岐阜県、高山市、豊川市議会、NPO法人樽見鉄道を守る会



▲イビデン株式会社 東横山発電所を見学させていただきました。(地域企業研究Ⅳ)

## 夢!実現のために —福祉実習報告会・教育実習報告会を実施—

昨年11月、介護福祉士や社会福祉士を目指す8名、教師を目指す35名の学生が、資格取得に必要な実習を行った際の報告会をそれぞれ実施し、2~3週間にわたる実習で学んだことや体験したこと、喜びや反省点など率直な思いを語りました。

社会福祉士を目指す谷田貴都さん(臨床福祉コミュニティ学科4年)は、大垣市社会福祉協議会での実習を振り返り、「知的障がいをもつ施設利用者の方と関わらせてもらい、相手の特徴などを把握しておくことが、落ち着いて的確な対応をとることに繋がることを学びました。」と述べ、高等学校教諭(商業)の教員免許取得を目指す足田洋介さん(経済学科4年)は「実習中は生徒の理解力に応じて教材をつくり、生徒が積極的に参加できるような授業作りを心がけました。また、生徒に理解してもらうために、具体的な説明ができるように私も勉強しました。」と報告しました。

両報告会は次年度以降に実習へ行く後輩達も聴講しており、先輩の経験から多くのことを学ぶために、真剣にメモをとっていました。



▲大垣市社会福祉事務所での実習報告をする佐々木翼さん

## 大学のことどれだけ知ってる?? 岐経大クイズ

もっと多くの方に岐阜経済大学について知ってもらおうと思い、新企画をご用意しました!

クイズの答えがわかった方は、以下のメールアドレスへご連絡ください!メールを送っていただき、クイズに全問正解した方の中から10名の方に大学グッズをプレゼントします!

**第一問** 岐阜経済大学が開学したのは何年でしょう?

- ①1967年(46年前) ②1977年(36年前) ③1987年(26年前)

**第二問** 卒業生でプロボクシング世界チャンピオンになった人は?

- ①戸高 秀樹さん ②畑中 清詞さん ③飯田 覚士さん

**第三問** 今まで送り出してきた卒業生の人数は何人でしょう?

- ①54,321人 ②23,456人 ③19,903人

### 連絡先

岐阜経済大学 企画広報課  
kikaku@gifu-keizai.ac.jp

メールの本文に氏名、郵便番号、住所、電話番号、クイズの答え、広報誌の感想(今後取り上げてほしいことなど)をお書きください。応募メスは3月31日(月)までです。

※皆様からご提供いただいた個人情報については、当選された方への賞品発送以外の目的では利用しません。また、利用目的に照らして不要となった個人情報については、速やかに目撃適正に削除・廃棄します。



岐阜経済大学公開講演会

## 東北の被災地は今...

—「いきがい」と「絆」が大切—

日時

2014年  
2月28日[金]  
13:00~14:30

会場

岐阜経済大学 講堂

講師

岐阜経済大学客員教授

鎌田 實氏



ベストセラー「がんばらない」をはじめ、「アハドクんのいのちのリレー」「がまんしなくていい」(以上、集英社)、「〇に近い△を生きる」「白い街あったかい雪」(以上、ポプラ社)、「大・大往生」(小学館)など著書多数。現在、諏訪中央病院名誉院長。日本テレビ情報番組「news every.」に毎週木曜レギュラー出演中。

※聴講申込については、先着順で定員までといたします。申込については本学ホームページをご参照ください。

2011年3月に起きた東日本大震災からまもなく3年が過ぎようとする中、被災地を幾度も訪れている鎌田先生に、現地で続く復興の状況や課題について語っていただきます。また、この西濃地域でも南海トラフ地震などの災害が起きる可能性がある中、私たちに今できること、考えるべきことは何か、鎌田先生に助言をいただきます。

本学5期生

## 武藤鉄弘さん美濃市長に当選

1月26日(日)、岐阜県美濃市の市長選において、本学5期生の武藤鉄弘氏が、卒業生として初めて市長に当選されました。

武藤氏は、1975年3月に本学経済学部経済学科を卒業。その後、岐阜県に入庁し、総務部長などを歴任。一昨年開催されたぎふ清流国体では、国体推進局長を務められ、国体を成功へ導かれました。昨年4月、美濃市副市長に就任され、今回の市長選に立候補されました。

また、本学の評議員や校友会副会長を務められ、本学の発展にもご尽力いただいています。



## 教職員人事

学内役職者

2013年12月1日付就任

高橋 勉	経済学部長(経済学部教授)
小倉 幸雄	経営学部長(兼)大学院経営学研究科長(経営学部教授)
古口 博之	教務部長(経営学部教授)
杉山 一也	学生部長(経済学部准教授)
岩坂 和幸	キャリア支援部長(経営学部准教授)
竹内 治彦	副学長(兼)図書館長(経営学部教授)

退職

中西 靖忠	経営学部教授 (2013年11月30日付)
尾崎 亜紀	財務課主事 (2014年1月7日付)

